2000.2.5　No 30　　発行　プルサーマルに反対する双葉住民会議
（双葉地方労　双葉地方原発反対同盟　双葉勤労者協議会　社民党双葉支部協議会）
双葉郡富岡町中央2丁目13-1　社会労働会館内　発行責任　石丸小四郎
TEL　FAX 0240-22-0034

脱原発情報

原子力防災訓練実施

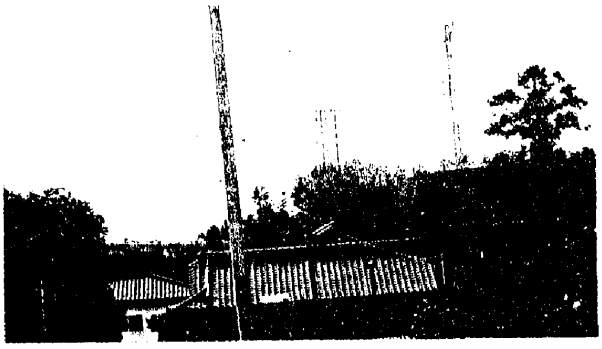
東海村の臨界事故を踏まえ県原子力防災訓練が２月３日～４日の２日間、東電第二原発の立地する楢葉、富岡両町を中心に避難、放射線量の測定などの訓練を行った。双葉地方原発反対同盟・社民党双葉支部・双葉地方労の３団体は自治労浜総支部の「原子力防災訓練見学検証行動」に共同参加した。

■訓練は前回（1997年）の３倍の150 機関、約3.000 人が参加。同発電所２号機の事故で周辺地域に放射性物質が放出したとの想定のもとで行われた。

Ⅰ・大熊町の県原子力センターに設けられた現地災害対策本部は対応内容を記号化した「実施細目」を立地町にファックスで指示。
Ⅱ・本部長が記者会見し住民への広報協力をよびかけ。
Ⅲ・陸・海・空から放射線をモニタリング。今回初めて中性子線も測定。
Ⅳ・集会所に待機していた100 人から50人の住民は各避難所に避難し放射線に関する説明を受けた。
Ⅴ・風速２㍍・放射性物質　１時間／７㌔移動。

■「見学検証」は分散して配置に着き、終了後に突き合わせを行い、福島県や各町村へ意見反映をすることとしている。本号は富岡町毛萱地区の訓練状況を中心に報告する。

■富岡町毛萱地区は原発の直近地区



緊張感の欠けた訓練が目に付く。

事前案内書「事故は起こり得ないが…」

◇９時25分　住民集会所に集まり始める。責任者不在、避難所に入れず苦情出る。富岡町発行チラシ持参「安全対策万全で事故は起きないが９時40分から12時30分まで訓練実施するので協力を…」

◇10時10分　防災無線で「２号から放射性物質放出、恒久対策必要かも知れないので広報に注意」

◇10時15分　住民自宅に帰る。

◇10時51分　防災無線「放射能が放出されている。毛萱地区は10時55分まで集会所に集まってください」

◇10時55分　東電広報車来る。ヘリコプター旋回し始める。

◇同　住民約30人集会所に集まる。

漫然と「集合・バス乗車・移動」でいいか？

◇11時00分　バス出発　避難所である富岡町文化センターに最短コースを取り、約10分で到着する。

富岡町では「汚染検査」なし！

◇11時10分　富岡町文化センター到着後の「住民の「汚染検査」なし。消防団、町幹部待機している。

放射線量の測定検査を受ける福島町民

放医研の放射線説明「甘い評価」に終始

◇11時20分　避難住民に対する説明。

◇講師　放射線医学総合研究所放射線障害医療部主任研究官　平間敏靖氏

Ⅰ・人間の体と放射線

Ⅱ・自然放射線と人工放射線

Ⅲ・被曝はなぜ怖いのか。
身体的障害（ガンの発生）
遺伝的障害

Ⅳ・被曝の特徴

Ⅴ・　被曝限度　一般　　1ミリシーベルト
職業人　50ミリシーベルト
「これ以下なら安全である」

Ⅵ・原爆の患者統計による解析
「200ミリシーベルト程度ならリスクに変化ない。定説になっていない」

Ⅶ・ＪＣＯ事故と被曝リスク
「臨界と判断できなかった」
「距離80㍍。14時00分で44ミリシーベルト被曝。翌朝まで92ミリシーベルト被曝しているが心配ない」

◇質問コーナーで甘い評価を厳しく指摘される。

■訓練は総体的に緊張感のないもので「ＪＣＯ事故の教訓が生かされていない」が率直な感想であった。